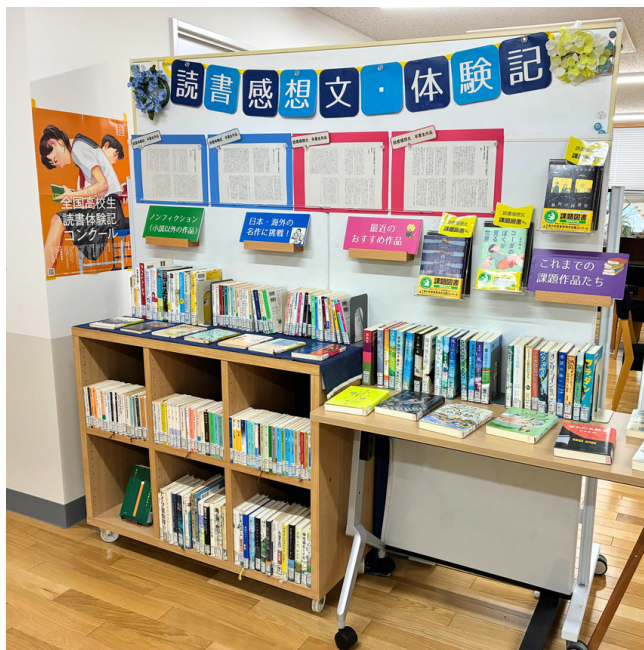




鳥取西高校 図書館ジャーナル

展示



読書感想文に お薦めの本2025

現在図書館では、読書感想文・体験記の課題におすすめの本を展示中です。

ぜひ読んでみてほしい『世界や日本の名作文学』や、本選の参考として過去の青少年読書感想文コンクール『課題作品』、『最近のおすすめ作品』、そして『ノンフィクション』と4つのコーナーがあります

過去の優秀感想文・体験記も展示していますので参考にしてください。早めに本を選んで取り掛かりましょう。

「どんな本を選んだらいいかわからない」「〇〇のジャンルでおすすめの本を教えて」など聞きたい人は、ぜひ気軽にカウンターでお尋ねください。

先生方のおすすめ本を紹介します



古田千草先生（数学科）おすすめ！
『赤毛のアン』
ルーシー・モード・モンゴメリ／著
村岡花子／訳
新潮文庫 1987年

本のタイトルは聞いたことがある人も多いと思いますが、その内容は知っていますか？『赤毛のアン』は出版から70年経った現在も根強い人気を誇っており、劇団四季によるミュージカル公演が行われているほか、2025年4月からは新たにアニメ化され、テレビ放送も始まっています。

赤毛で空想好きな少女アン・シャーリーが、マッシュとマリラの兄妹に引き取られ、成長していく姿を描きます。失敗や誤解を重ねながらも、持ち前の明るさと想像力で周囲の人々を魅了し、次第に信頼と愛情を築いていくアンは、今も多くの読者に感動と共感を与えています。

アンの前向きさだけでなく、マッシュとマリラがアンを大切に思っているながらも、その気持ちをうまく伝えられない不器用さに私は共感し、特に印象に残りました。永遠の名作をぜひ読んでみてください！

池本展康先生（地歴科）おすすめ！
『若い読者のための経済学史』
ナイアル・キシティニー／著
月沢李歌子／訳
すばる舎 2018年



1杯目のビールは美味しい。特に運動をして汗をかいた後は格別。満足度がさらに高くなる。満足度のことを経済学では「効用」と言い、2杯目以降のビールの効用は1杯目よりも逓減していきます。消費財を消費すれば消費するだけ、満足度の総量は増えても満足度は徐々に減少していくことを、「限界効用逓減の法則」といいます。

学生時代の研究室で、J.M.ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』の日本語普及版を読み、マクロ経済学を研究しました。市場において需要者と供給者の利己心だけでは1929年からの恐慌を脱却できず、政府が市場への介入を通して有効需要を創出する必要性があると説かれました。そんな経済学は難解なイメージがありますが、身近な生活場面に直結しています。その時代ごとの史実や、生活場面と照らし合わせながらこの本を読み始めてみてはどうでしょうか。

最後に...「2杯目のビールは1杯目を超えられない。」

探究的な学びに役立つ 図書・資料・情報コーナー

課題研究などの探究的な学びに、もっと図書館を役立ててもらうため、新しく常設別置コーナーを作成しました！

- 探究的な学びとは ○問いを立てる
 - 調査・研究方法 著作権・研究マナー
 - 成果発表 論文・プレゼン・ポスター
 - その他 思考法・データサイエンス・デザイン
- の、5つに分かれています。

今後、さらに資料を増やす予定です。探究に悩んだら、ぜひこの棚もチェックしてみてください。



iPadが図書館にやってきました



10台あります。ご利用の際は
カウンターで貸出します。
※教員のみ貸出可能
※授業・調査研究用

新着図書 Pick Up!



『さみしい夜のページをめくれ』
古賀史健／著 ならの／絵 (ポプラ社)

『さみしい夜にはペンを持て』第二弾。本を選ぶ、本を読むことから自分を見つめる読書潜水物語。どんな本を選び、心を養う糧とするかは自分次第。本の中にはきっとあなたに寄り添うことばが見つかります。



『考古学者だけど、発掘が出来ません。多忙すぎる日常』

青山和夫、大城道則、角道亮介／著 (ポプラ社)
考古学者といえば確かに発掘のイメージありますよね。だけど発掘出来ないなんて、一体何をしているのか？多忙すぎるお仕事(?) エッセイ。



『それいけ！平安部』
宮島未奈／著 (小学館)

『成瀬は天下を取りに行く』の著者が描く、さわやかゆる青春物語。平安部とは平安の心を学ぶ新しい部活。個性的な部員たちとの書道に蹴鞠大会、文化祭での取り組みなど幅広く平安を楽しめます！



『ないもの、あります』
クラフト・エヴィング商会／著 (筑摩文庫)
本屋大賞「超発掘本!」。よく耳にするけれど一度として見たことのないものたち、あります。たとえば「転ばぬ先の杖」。「堪忍袋の緒」。実在しない品々を紹介する架空のカタログ形式の一冊。

図書委員のおすすめ本



『怪盗フラヌールの巡回』
西尾維新／著
講談社 2022年



みなさんは「返却怪盗」が想像できますか。「怪盗」といえば「盗み」。しかし、この本の主人公は「返す」怪盗です。主人公の父親は主人公と同じルポライター。のはずが、「大怪盗・フラヌール」だと判明。それによって傷ついた弟妹と愛する乳母のため主人公は二代目怪盗フラヌールを襲名し持ち主にお宝を返す返却活動を開始します。

家族だからこそその愛憎が繰り広げられる物語です。『いつでも死んでいいから、いつまでも生きてくれ』それぞれの登場人物が家族に向ける愛情の形。私も家族への愛情について考えさせられました。私の愛情はどういうものだろうか。家族だからといって嫌にならないわけではない。また、殺したいほど愛してる、という言葉もあります。無償の愛はどこへ向かうのか。皆さんも是非読んでみてください。

(1年 Y.K.)